

メディカル委員会からのお知らせ ～救護医療体制の充実、緊急時の対応のために、 委員会を結成して挑む4年目～



いびがわマラソンでは、皆さんに「より安全・より安心」にマラソンを楽しんでいただけるよう、医療機関・警察・消防・その他関係機関の代表による「メディカル委員会」を3年前より結成し、それぞれの専門的意見を救護医療体制に反映させ充実を図っています。

メディカル委員会構成

岐阜県スポーツドクター協議会・揖斐郡医師会・揖斐警察署・揖斐郡消防本部
揖斐厚生病院・岐阜大学医学部附属病院高次救命治療センター・西濃陸上競技協会

緊急時の対策について

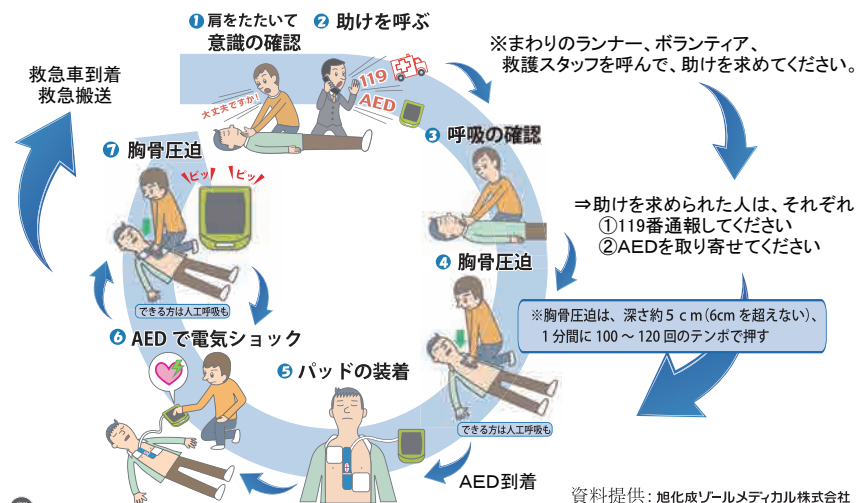
- ア) 突発的な災害や緊急時のための『緊急避難施設』を4カ所設定。
 公正公民館 (8.6^{キロ}地点)、久瀬振興事務所 (14^{キロ}地点)
 藤橋振興事務所 (21^{キロ}地点)、久瀬公民館 (29^{キロ}地点) ※詳細はP6-7『コースマップ』をご覧ください。
- イ) ドクターヘリの活用を視野に入れ、ランデブーポイント(着陸候補地)を6カ所設定。
- ウ) スタート地点とフル折返し地点(藤橋地内)では気温差があるため、スタート1時間前に折返し地点の気候・気温などの情報を会場アナウンスにてお伝えします。
- エ) 危機管理本部、各救護所、AED隊、AED係はメーリングリストにより情報共有。

ご注意ください

皆さんの走りをサポートするAED隊(自転車)やAED係(kmポイント)は、「救急救命」に備えてコース内に配置されています。
 一刻を争う事態に備えて待機しておりますので、十分な医薬品は常備しておりません。
 ・「喉が渇いた」「足が痛い」など軽度な症状の場合は安易にAED隊やAED係に頼らず、近くの給水所や救護所をご利用ください。
 ・ランナーご自身が飲食されたゴミをAED係に渡さないでください。
 本来のAED係の役割を再認識して頂きますよう、ご理解とご協力をお願いします。



もし、いびがわマラソンのレース中に目の前で人が倒れたら…



“いびがわ応援団”の個人協賛で、 医療体制を充実させています。

こちらのポロシャツは、“いびがわ応援団”に個人協賛していただいた方にお渡ししているものです。
 個人協賛金は、ランナーの皆さんがより安心して走れるよう、医療体制の充実に使わせていただいております。



ご協賛いただきました“いびがわ応援団”の皆さま、誠にありがとうございました。



〈13色・8サイズ〉
大会当日も、事務局ブースで受付します。

メディカルチェックリスト

～スタート前に、メディカルチェックをして、
安心してレースに参加しよう！～

安全にレースをはこぶために、レースの当日の体調をスタート前にチェックしましょう。
下記項目（1～8）の中で、1つでもあてはまらない項目があれば、レース参加を中止するか、
慎重にレースに臨んでください。

- 1. 体温は平熱である、熱感はない。
- 2. 疲労感が残っていない。
- 3. 昨夜の睡眠は充分にとれた。
- 4. レース前の食事や水分をきちんと摂れた。
- 5. かぜ症状（微熱、腹痛、のどの痛み、咳、鼻水）はない。
- 6. 胸や背中の不快感や痛みはない。
- 7. 腹痛、下痢はない。吐き気もない。
- 8. レース運びの見通しが立っている。

【日本陸連医事委員会より】

服装はその日の天候に合わせてましよう

【過去の気象状況（気温、湿度、風はスタート時）】

2015	天気:雨	気温:14.6℃	湿度:94%	風:西北西1.1m
2014	天気:雨	気温:15.9℃	湿度:91%	風:東南東0.9m
2013	天気:雨	気温:12.5℃	湿度:100%	風:静穏0.0m
2012	天気:雨	気温:12.0℃	湿度:66%	風:北北東0.8m
2011	天気:晴	気温:15.5℃	湿度:71%	風:南東1.4m
2010	天気:晴	気温:14.5℃	湿度:67%	風:東1m



レース中の注意事項

- ◆レース中は水分補給を心がけましよう。
- ◆体調に異状を感じたら、早めにレースをやめる勇気をもちましよう。
- ◆ラストスパートは急激に心臓に負担がかかる危険な走り方ですので
余裕をもってフィニッシュしましよう。

楽しく安全に、走るために、

- ①時間関門を通過できなかった場合や救護所でリタイヤ勧告を受けた場合は、無理をせずレースを中断してください。
- ②危急車輛（救急車等）がコース内を通行する場合がありますが、AED隊やAED系の指示に従い、速やかに危急車輛が通行できるようにご協力ください。

緊急時対応のため必ず提出してください

命を守る『安心カード（兼 誓約書）』

いびがわマラソンでは、受付の際、緊急時対策のための『安心カード』を全ランナーの皆さんに提出していただいています。これは、緊急時に連絡先や既往症、同伴者、マラソン歴などをナンバーカードから瞬時に検索し、対応するためものです。

『安心カード』が未提出のまま出走されると、緊急時の対応が遅れますので、万一来備え必ず『安心カード』を提出しましよう！

いびがわマラソン
安心カード
スタート前に提出！

本大会では、ランナーの皆さんが、より安心して走っていただくために、安心カードを提出してまいります。下記をご記入のうえ、安心カード受付へ提出ください。（スタート前までに）

誓約書

私は本大会に参加するにあたり、裏面の誓約内容を守り、主催者及び関係団体には、ご迷惑をかけることを誓約します（自筆署名捺印）

氏名 _____ 印 _____

保護者氏名 _____ 印 _____

安心データ（必ずご記入ください）

1. 緊急時連絡先電話番号 _____

2. 上記の相手方氏名と続柄 _____

3. 既往症（ある方） _____ 通院先 _____

4. 同伴者の有無 有（ランナー応援） _____ 無 _____
同伴者氏名 _____ 連絡先 _____

5. マラソン参加回数（ハーフマラソン以上（公認は問わず）） _____ 印 _____

参加種目 _____
ナンバー _____
記念品 _____

救護体制

いびがわマラソン 2016 の救護医療体制

～昨年、AED 救命講習受講ランナー、救護スタッフの懸命な救護処置により、1名の尊い命が救われました！～



いびがわマラソンでは、メディカル委員会の専門的意見から救護医療体制を毎年強化しつづけ、常に、より安全・安心な大会をめざしています。

また、一般ボランティアやランナー向けの AED 救急救命講習会も実施し、『みんなで見守り、みんなで助け合う』体制づくりに力を注ぎ、昨年も AED 救命講習受講ランナー、救護スタッフの懸命な救護処置により 1名の尊い命が、救われました。



スタート、ゴール、コースに計6カ所!
救護所

医師や看護師が常駐し、けがや病気の対応をします。コース上でけがをしたり、具合が悪くなったりした場合は各救護所から救護車両が迎えにいきます。

自転車で巡回するAED隊が約20名!
自転車AED隊



医師や救命士、看護師などが、AEDや救護物品を持って、自転車で、コースをエリアごとに、巡回します。

ランナー同士でも見守り、
助け合って、
皆さんの力で
より安全な大会に!



医師ランナー約60名に看護師救命士も
メディカルランナー

日医ジョガーズ、一宮医師会をはじめ、医師、看護師、救命士などが一緒に走りながら、ランナーをサポートします。それぞれ異なるペースで走りランナーを見守ります。

AEDを誰でもわかる場所に
フルのキロポイントすべてに設置!

定点AED係



約50名の救急救命士専門学生や医学生・看護学生が、1kmごとのポイントに、AEDや応急手当の器具を持って備えます。

いびがわマラソンの救護医療は、救命処置を重視した体制で運用し、競技中の傷病については応急処置のみ行います。重症者に確実に対応するため、救護所においてテーピング、湿布、コールドスプレーの処置は行いませんので、必要な方は各自で準備いただきますよう、お願いします。